

課題名	<p>びわ、果房の被覆による寒害防止</p>
成果の要約	<p>開花終了から幼果にかけての遅い時期の寒波に対して木毛被覆の効果が高かった。</p> <p>なお、木毛被覆で大果は多くなったが、品位がやや低下した。</p>
成績概要	<p>花着きが悪い年の花や幼果の簡易な寒害防止法として果房被覆を検討した。被覆は開花がほぼ終了した1月25日から30日に行った。寒害を受けるような極低温<math>-5.1^{\circ}\text{C}</math>の寒波が2月26日から27日に襲来した。</p> <p>(1) 木毛被覆区は寒害防止の効果が高く、セロハンパッキン被覆区は寒害防止の効果は低かった。</p> <p>(2) 果実の肥大は木毛被覆区、セロハンパッキン被覆区が大きく、スポンジパッキン被覆区、無処理区は小さかった。</p> <p>(3) 果実の品位では、スポンジパッキン被覆区で秀品果率が高く、ついでセロハンパッキン被覆区で高く、木毛被覆区、無処理区では低かった。</p>

第1表 袋掛け時の着果状況

処 理	処 理 果房数	着 房 率		着果数別の果房数割合 (%)				
		全 体	4果以上	1	2	3	4 果	5果以上
		%	%					
木 毛 被 覆	225	40	14	14	8	5	5	8
スポンジパッキン被覆	230	27	12	9	4	4	5	7
セロハンパッキン被覆	240	18	5	8	2	3	1	4
無 処 理	217	24	9	7	4	4	2	7

$$\text{着房率} = \frac{\text{袋掛け房数}}{\text{処理時房数}} \times 100$$

第2表 収穫時の果実の大きさおよび品位

処 理	1果平 均 重	階 級 別 果 数 割 合 (%)					品 位 別 果 数 割 合 (%)		
		2L	L	M	S	格 下	秀	優	格 外
	g								
木 毛 被 覆	38	3	27	40	11	9	50	29	21
スポンジパッキン被覆	35	1	26	40	20	12	62	21	17
セロハンパッキン被覆	36	1	37	35	18	9	56	27	18
無 処 理	34	1	27	41	18	15	51	26	23